九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

The life and Death of Jack Straw (In Honour of Professor Fumio Miyahara On the Occasion of His Retirement)

Ota Kazuaki
九州大学言語文化部

佐野 隆弥
九州大学言語文化部

https://doi.org/10.15017/1354654

出版情報：英語英文学論叢. 47, pp.143-178, 1997-02. 九州大学英語英文学研究会
バージョン：
権利関係：

イングランドの名高き反逆者
ジャック・ストローの生と死

——スミスフィールドにてロンドン市長に殺害さる——

太田　一昭・佐野　隆弥*（訳）

登場人物表（登場順）

収税吏		
ジャック・ストロー	瓦職人	ケント州の反乱者たち
ジョン・ボール	教区司祭	ケント州の反乱者たち
ワット・タイラー		ケント州の反乱者たち
ノブズ	少年	ケント州の反乱者たち
トム・ミラー	道化	ケント州の反乱者たち
大蔵卿		
カンタベリー大司教		
国務大臣		
使者		
ホッブ・カーター	エセックス州の反乱者たちの隊長	
皇太后		
ソールズベリー伯爵		
宮廷の取次役	皇太后の従者	
国王（リチャード二世）		
サー・ジョン・モートン	ロチェスター長官	
サー・ジョン・ニュートン	国王の太刀持ち	
スペンサー	はしけの船頭	
サザックの男たち		
フランドル人		
ウィリアム・ウォルワース	ロンドン市長，後にサー・ウィリアム・ウォルワース	

＊神戸商科大学助教授

他に，貴族，ジェントルマン，伝令官，２名の守衛官，近衛兵など
（「大司教」はしばしば「司教」と呼ばれる。）

第１幕

第１場

収税吏，ジャック・ストロー登場。

収税吏　こんなにつまらないことでこれほどの不平不満が起こるとは，
まったく初めての経験だ。
しかし私もこの仕事を始めて七年以上にもなるからな。
あの瓦屋夫婦は，娘が税を課される年齢には
達していないと言い張って，かんかんに怒っている。
ストロー　お前が国王の収税吏か。
収税吏　そうだ，瓦屋。なぜそんなことを聞く。
ストロー　お前が権限以上のことをやっているからだ。
おれたちは陛下の御意向にすべて従ってきた。
お前はここの住民みんなから税を集めたはずだ。
おれの娘はまだ十四才になっていない。だから娘には
税はかからないのだ。
収税吏　お前がそう言うからには，信じなきゃならんのだろう。
ストロー　お前が信じようと信じまいと，おれはこれ以上
びた一文だって払うつもりはないぜ。
お前にそんな権限なんかあるもんか。
貧乏な国民からこんなに搾りとりやがって。
おれの目の前で娘を探し出そうなんて
人道にもとる下劣なことをしやがる。
お前は悪党の中の悪党，極悪人だ。
収税吏　なに，下司野郎，私に指図しようというのか。
お前は私の役職が何で，どんな仕事があるのか
教えてくれようというのか。
ストロー　何だとこの野郎，おれを殴りやがって。もう絶対
許さねえぞ，この野郎。ぶっ殺してやる。

くたばりやがれ。それがお前の骨折賃だ。
収税吏　ああ，助けてくれ。王の役人が殺される。

教区司祭ボール，ワット・タイラー，ノブズ，道化，
トム・ミラー登場。

タイラー　どうした，ジャック・ストロー。
誰かお前をひどい目に会わせたのかい。
ストロー　ああ，ワット，かっとして王の役人を殴り殺しちまったんだ。
ミラー　殺された人間を生き返らせるのは簡単なことさ。
尻から息を吹き込めば，息を吹き返すよ。
司祭　落ち着け，大したことではない。ジャック・ストロー，よくやった。
これであなたは，お国のために立派な働きをしたというものだ。
この男のような人でなしの輩がみんなこういう報いを受けるならば，
イングランドはまっとうな国となり，悪政から解放されるだろう。
ノブズ　本当に，親方たち，こんなことに黙って
我慢するなんてもうまっぴらだよ。
命は神様のものなんだから，最後には死ねばいいんだ。
王様に逆らう人間の御立派な最期は首くくりと決まっているけど，
でも，もしぼくの言うことを聞いてくれるなら，
この悪事に復讐するよう，進んで立ち向かって行こうよ。
ストロー　本当に，おれたちのような貧乏人にどんなことができるのか，
王は知りっこねぇ。
だからみんなが賛成してくれるなら，教えてやろうじゃないか。
ここにおられる立派なボール司祭が言われるには，
おれたちは同胞愛で一致団結して堂々と，
この争い事に対処しなきゃならないんだ。
ミラー　え，こいつが立派なやつだって？悪魔だよ，こいつは。
でなきゃ，街の女ならぬ街の司祭なんだ。
黒の僧衣には，悪事など隠されていないとお前さんら思うだろう。
だがよ，こいつ説教壇には年二回だけの御登場，
ところが居酒屋では強いビールを御賞味あそばすそのお姿を
年四十回お見かけするってわけだ。

司祭　同胞よ，この頃では最も弱き者たちが苦しい目にあっている。
だが私の話を聞いてくれ，ジョン・ボールの言うことに従ってほしい。
金持ちが栄え，貧乏人はその門前で施しを乞うという
悲しむべき国へと，イングランドは今やなり果ててしまった。
しかし神はこの仕打ちを決してお許しにならないし，
よしともされないのです。そのことを私は，あなたたちの前で
聖書にかけて証明することができる。
アダムが耕し，イヴがつむいでいた昔，
身分の違いなどなかった。
兄弟たちよ，同胞たちよ，地位階級があるよりも，
身分差のない社会の方が，はるかによいのです。
地主は小作料を，弁護士は手数料を取ります。
だから貧乏人の財産などあっと言う間になくなってしまう。
人々がサンザシの木の実を食べていた時には，
おたがいに助け合って暮らし，
けがの手当をしてくれる所もなかったが，
そのかわり高利貸しもいなかった，
そんな時代には人々も楽しく日々を送っていた。
だが今や，悲しむべきあり様となってしまった。
雨露をしのぐのも困難なあばら屋に住む未亡人が，
家財道具といえば真鍮の平鍋一つしかなく，
時にはパンを買うお金さえないというのに，
地主に多額の借地料を支払わねばならない。
払わなければ，無理にでも搾りとられてしまう。
我が同胞よ，金持ちがすべてを所有し，貧者が悲惨のうちに
生きねばならぬような理不尽のきわみの仕打ちをこの目で
見るくらいならば，私はむしろ死んでしまいたいと思う。
だからジョン・ボールの言うとおりにしてほしい。
私は本当にあなたたちを皆愛している。
個人個人の財産は等しくそして公平に分けようではありませんか。
それ故武器を取り戦うのです，
この，市民に加えられた危害から逃れるために。
そうすることは正義にかなっているのです。

ストロー　よく言ってくれた，司祭さん。
おれたちはあんたの言う通りにするぜ。
金持ちはみんな追っ払い，
やつらの美しい衣装も台無しにしてやろうじゃないか。
絶対間違いなく，
法に携わるやつらが何と言おうと，
命にかえても，あんたをカンタベリーの大司教に，
そしてイングランドの大法官にしてやるぜ。
ワット，どう思う。それでいいかい。
タイラー　ああ，ジャック・ストロー。そうしないんなら，おれをしたたか
ひっぱたいていいぜ。平民にこんな風に好意を示してくれるなんて
この人以外にはいないだろう。
ここで無駄口をたたくのはもうやめて，
さあ，すぐに仕事に取りかかろう。
ぐずぐずしないで出発だ，
これからは，誰一人残らず，自分が自分の主人なのだ。
ミラー　そしておれも，旦那方，その一人となるよ。ただし，おれは敵が
みんな行ってしまった後戦うがね。おれたちで絞首台がすし詰めになって，
最後にゃ壊れてしまうってことは，はっきりしてるさ。
絞首刑にするのに，おれたちの数が足りないってことはないよ。
ストロー　この蜂起にあたって，おれたちを助けてくれる十分な数の
男たちがいればいいんだが。ワット，どう思う。
司祭　下層の連中なら心配する必要はない。
タイラー　だが蜂起軍の隊長はどうする。
司祭　あなたたち二人がケントの男たちを引き連れてゆけばいい。
ストロー　相棒，よろしくな。さあ，取りかかろうぜ。
タイラー　よし分かった。いざロンドンへ。

ノブズを除き全員退場。

ノブズ　これで首くくり役人も忙しくなるでしょう。
こんな一団見たことありますか。
出だしも最悪だし，この先どうなることやら。

待っているのはほんとに，反逆者のお決まりの末路，つまり
皆様もよく御存じのとおり，絞首台でぶらりんぶらりんってやつです。
だけど，彼らが何をかまいましょう。皆様もお聞きになったでしょう，
うまく行かなきゃ死ぬだけってわけです。あの連中にとって，
ベッドのなかで安楽に死ぬなんて恥ずかしいことであり，
絞首台で首から下をぶらぶらさせるのは，名誉なことなんです。
しかしそうは言っても，こんな風に謀反が始まってしまうと，
治まるまでには，多くの人の命が失われるかもしれない。
ぼくとしてはほんとに，できるだけ先頭に立って進みたいけど，
結果がうまくいかなかったら，他の連中に混じってきっと逃げるだろう。
まだ子供だから，集団のなかに姿を隠すこともできるだろう。
タイバーンの絞首台よ，しっかり立っていろよ。
すぐに処刑者で一杯になるからな。

（退場）

第2場

大蔵卿，大司教，国務大臣，その他登場。

大蔵卿　しかし大司教殿，あなたも御存じのように，
フランスに対する戦争を支援するための課税が
前回の議会において両院の全会一致で
可決されました。王は，この戦争によって
王権の正当な回復と報復を期しておられるのです。
にもかかわらず，国民の納税は至る所で著しく遅滞しています。
あの恩知らずな連中をたよりとするぐらいなら
王は軍の指揮をとられない方がよいのです。
大司教　大蔵卿殿，私には大変奇妙なことと思われるのですが，
一般大衆は，正統に王位を継承された国王に
理性と敬意をもって服しながら，
彼らのために用いられる税という王への贈り物を
かくも出し渋るとは，一体どういうことでしょう。
連中は乳を吸いながら，その乳の泉たる国王に

手を貸そうとはしないのです，王はまだお若いというのに。
情知らずの，人道にもとる者どもと言わざるをえません。
もし万一事態が悪しき方へ展開した場合，
その非難の矛先は大法官の頭上にふりかかることになるでしょう。
そしてもし私の推測が完全に誤っているのでなければ，
群衆という，多数の頭を持ち，
誤解と誤謬の精神を有する獣は，
国会で認められた王に対する今回の徳税を，
大衆の幸福を支え，利するものとしてよりも，
王個人の私利私欲に必要なものと見なしています。
この点で，やつらがどれほど高位の者を侮辱しているか，
私の良心がその証人となりましょう。

国務大臣　両閣下，仰せのお言葉はもっともなことです。
というのも，両閣下のお話は，理性という確かな根拠に基づいており，
国王の利益を常に念頭に置いておられるからです。
そしてその利益こそこの国の利益そのものなのです。
ですが，我々の大義のために，
この問題に対する私の意見を申し上げさせてください。
民衆は愛情深い慈悲心を持っております。
彼らのそのような心は，時の許す限り外に現れるものですが，
これを我々の立場のような者が見ると，
彼らが心をこめて金を差し出すのは，
他人の幸福のためになる時であると思われます。
こう申したからといって，両閣下，私の意図を誤解なさらないでください。
私とて高貴なものと下賤のものとの区別はわきまえております。
我々は皆国家のためだけに生きており，
その国家とはすなわち王権そのものなのです。　（使者登場）

使者　ケントの治安判事と長官が，皆様方に
よろしくとのことでございます。

大司教　両閣下，この短い手紙は我々一行に
危険な任務が生じたことをはっきりと伝えています。
急いで，国王陛下にこの知らせをお伝えしましょう。
恐ろしい知らせですが，火の手は上がったばかりです。

真剣に対処すれば，鎮めることもできるでしょう。
ケント州で平民たちが蜂起したのです。この最初の
反乱を拡大させてはなりません。
大蔵卿　おい，どのくらいの人数が集結しているのだ。
使者　閣下，およそ二万人です。
国務大臣　御覧ください，最近予測されていた大きな危難が，
この不幸な国に今まさにふりかかろうとしています。
必要以上の不平不満のために，この野蛮な者どもは，
彼らの主君であり，聖油を注がれた真の君主である，
正当な王に対して非道にも復讐を企てています。
この盲目の下劣な群集はかくも大胆に
反乱の理由や対象も分からずに暴力をふるおうとしているのです。
だが群集よ，せいぜいおまえらしく振る舞い，
正当なる君主に立ち向かうがよい。
時には太陽も雲でその姿を隠すことがあるかもしれない。
しかしまたたく星が，その光の源である太陽を
おおい隠したり，追い払うことなどまずできないのだ。
（全員退場）

第3場

ジャック・ストロー，ワット・タイラー，ホッブ・カーター，
トム・ミラー，ノブズ登場。

ストロー　おい，ワット，これは別の問題だ，世間は最近
すっかり変わってしまったように思えるんだが。誰が乞食のような
生活を望むだろう，誰がこの状態のままでいいと言うだろう。
タイラー　ここにちょうど隊長が四人いる。ジャック・ストローに
ワット・タイラー，ホッブ・カーターにトム・ミラーだ。
イングランド中を探したって，こんな隊長を四人そろえるなんて
できっこない。おれが保証するよ。
ノブズ　それは大いに疑問だけれど，首がなくなることだけは保証できるね。
カーター　ストロー隊長，タイラー隊長，私は

エセックス人の部隊を連れて来ました。
殺るか殺られるかといった，決して屈服しない者ばかりです。
ミラー　おれは小さな隊長なんで，あんた方より有利だよ。
あんた方が戦っている間，おれはこっそり小さいびんのなかに
隠れることができるんでね。それほどおれは小さいんだ。
ノブズ　だけど，親方たち，ロチェスターのサー・ジョン・モートンは
どんな返事をしたんですか。
あの男は，王が使用できるよう，城を反乱軍に明け渡すつもりはないと
言ってるそうですが。
ストロー　その通りだが，力ずくで引きずり出してやった。あの男の
妻子は人質として押さえてある，王のもとからすぐさまに
戻ってくるようにな。王への使いに出したのだ。
ミラー　いいかいモートン，ちゃんとかみさんのいる我が軍の
おえら方のところに返事を持ち帰らないと，あんたの家族は御陀仏だよ。
カーター　ストロー隊長，集結しているのはどれぐらいだ。
ストロー　まあ五万人ぐらいだよ，カーター隊長。
カーター　野営はどこにする。安全な場所はあるかい。
ストロー　なあにホッブ，グリニッジのそばのブラックヒースに
野営をしたらいいさ。
もし王がおれたちの希望を聞くためにそこに出向いて来るのなら，
それでよし。もし来ないのなら，その対策も考えてある。
タイラー　ジャックよ，本当におれたちに成算はあるんだろうな。
それがこちらの手にあるうちに，さあ取りかかろうぜ。

（退場）

ノブズ　実際のところ，いつまでもちこたえられるか誰にも分からない。
すでに五万人が武装蜂起し，これから集結するそうだけど，
みんな一緒にさっさと縛り首になれば，後悔するやつもいるだろう。

（退場）

第4場

皇太后，ソールズベリー伯爵，宮廷取次役登場。

皇太后　このみじめな国土に破滅をもたらそうとする
あの非道で不当な反逆者どもについての
思いもよらぬ，有り難くない，不幸な知らせは，
ああ，混乱しきった女の心をおびえさせ，
我が胸をおしつぶし，我が眠りをさまたげる。
もし今何か良い知らせが，
我が息子，真の聖油を注がれた国王のもとに届かなければ，
私の重い心は，心労の重荷で一杯になって，
真っ二つに裂けることでしょう。
伯爵　奥方様，今回の御煩労は，もっともなことであると存じます。
が，あなた様の御子息国王陛下はまだお若い方ですが，
御自分というものを十分にわきまえておられる方ですから，
あの高慢きわまりない反逆者どもに，王の御不興を
こうむるといかなることになるか，知らしめなさるでしょう。
また，陛下は御寛容なお顔をなさることもありますが，
好機と見るや，断固たる処置を取られる方でもあります。
奥方様もよく御存じのはずですが，国王として
陛下は，いかなる侮辱も，とりわけ卑しい下賤の民による
侮辱をこらえたりはなさらないでしょう。
やつらは，王に対する敬意も抱かず，国王の君主としての威厳を
目の当たりにする資格さえないのです。
国王たる者時には連中に敬意を表してみせることもおありでしょうが，
それもただ次に取るべき方策を考えてのこと。
陛下もそのように決意されているのかもしれません，
つまり敵など信用せず，まず探りを入れてみるというわけです。
取次役　そのとおりでございます，皇太后様。国王陛下は，
数多くの貴族の助言に十分に耳をかたむけておられますから，
思いますに，陛下の失墜をたくらむ
どれほど高慢な敵であろうとも
我々と互角に戦うことなど到底できないでありましょう。
枢密院がこの件に関して十分賢明な働きをして，
君主と国家に対して反逆を決意した反徒たちが
高慢な野心に駆りたてられることがないよう願いたいものです。

御覧ください，ちょうど国王陛下が，
大司教と大蔵卿を伴いおこしになられました。

国王，大司教，大蔵卿登場。

国王　正義の，大義ある戦いの装いのもと，
国家と国王を脅かす勢力を有する反乱が勃発するとは，
諸卿よ，我が親愛なる国民に一体いかなる憤怒の情が
生じたというのか，私は愕然としている。
だが手紙や信頼できる報告によって
我々に与えられた情報が事実であるならば，
ほんの小さな火花が，この反乱という大火を引き起こしたのだ。
その火を我々は，炎の激しい力で火傷を負わないうちに，
慎重に注意しながら消し止めねばならない。
その間，母上は落ち着いていてください。
やつらがいかに悪意を抱こうと，母上には指一本触れさせません。
謀反人どもが国王に一撃加えようと思い上がる前に
やつらを切り裂いてしまう手段が，我々にはあるのですから。
どれほどのつらい災難が私に降りかかろうとも，
母上は必ず守ってみせると決意したのです。

使者モートン登場。[1]

モートン　国王陛下万歳。
取次役　陛下，ケント州から使者が参っております。
陛下に謁見を願っております。
国王　こちらに連れてまいれ。使者の話を聞こう。
人民と国王の間に立ち，威嚇と談判の役割を
兼ね備えなければならないとは，つらいものだ。
身分ある立派な者が，強制されずしてこのような役回りを
引き受けるだろうか。神に対して，国家に対して，そして君主に対して
罪を犯さざるをえない立場に身を置きたいと思うだろうか。
皇太后　あのサー・ジョン・モートンのような

善良な紳士が，かくも卑しく邪悪な考えを
抱くとはとても考えられません。
もし何か恐れや策略のためでなければ
あれほどの忠実な鳥が，あの美しい巣を汚すなんて
女の私にはとうてい考えられないことです。
彼がやって来ました。私は今はやる気持ちにかられています。
彼の伝言の内容をぜひ聞いてみたい。
モートン　ケント州の平民たちが，陛下に御挨拶を申しております。
私は不本意ながら使者に仕立てられました。
陛下，反乱者の一団がすでに攻撃を加えています。
連中は最近ケント州で騒動を起こし，
陛下の臣民を一斉蜂起に巻き込んでいます。
もし陛下が機会をのがさず対処されなければ，
イングランドはやつらの反乱によって破滅の危機に瀕するでしょう。
陛下におかれましては，すぐさま好機をとらえて治療法を見出され，
このように思い上がったやつらの高慢さをお静めなさいますように。
大司教　聖油を注がれた王にかくも反逆する
謀反人の一団を率いている隊長は一体誰なのだ。
それは身分ある者たちなのかあるいはそうではないのか。
もしそうなら，私は気の毒に思わざるをえない。
モートン　そうではございません，閣下。大して価値のない連中です。
瓦職人に屋根ふき職人，
粉屋といった連中ばかりです。
今回の騒乱に突き動かされるまでは，
今まで一度たりとも戦場になど出たこともない者たちなのです。
そして私が，この伝言を国王に伝えた後，
確実にここから戻るようにと，
彼らは私の妻子を人質にしております。
あの連中は，ロチェスターの城から私を引きずり出し，
その場で陛下への使者をつとめるよう誓わせたのです。
反乱軍の要求をお伝えした今，
陛下が私をお許しくださいますよう願っております。
今回の役柄もあくまでも強いられたものなのです。

国王　どれほどの兵力が展開しているのだ。
モートン　陛下，およそ二万人ほどであろうと思われます。
もし陛下が私の進言をお聞き入れくださいますならば，
このように謀反人どもと交渉いたしましょう。
すなわち私が反乱軍の代表と談判する時間を見つけ，
彼らの胸のうちの思惑を聞き出してまいりましょう。
やつらは背信の思いで武装しておりますから，
陛下の予想を越える動きを見せぬともかぎりません。
国王　急いで非道な反逆者どものところに戻るのだ。
そしてよいかサー・ジョン，私からの挨拶だと言って，こう伝えてくれ。
やつらの目的と希望を聞くために
国王自らがそちらに出向くと言うのだ。
そしてもし連中が何らかの損害を被ったと言うのなら
王が十分な償いをするつもりであるとも伝えてくれ。
さあ行ってくれ，サー・ジョン。テムズ川で
王は反乱者たちと会見し，
やつらの利害に関して交渉したいと話すのだ。
サー・ジョン，さあ行くのだ。そして彼らによろしく伝えてほしい。
モートン　この件に関する陛下の御意向，必ずお伝えいたします。
ではこれにて，お暇乞いさせていただきます。
陛下がネストールの何倍も長生きをされ，国家の統治と
国土の保全と，宮廷の守護を果たされますようお祈りいたします。
皇太后　さようなら，サー・ジョン。きっと本分を
忘れた謀反人たちの目を覚まさせておくれ。

（モートン退場）

大司教　陛下は，今回の件に対し，十分熟慮された上
その御位にふさわしい御決断でもって対処なさいました。
陛下は御自身が国王であることを示されねばなりませんし，
地上における神の代理人として統治されねばなりません。
王の顔色一つで，下位の者どもの生死は決まるのです。
王が一旦命令を下したからには，
その宣告は覆すことはできないのです。
陛下は，いわば腐肉のような平民どもを

餌食にするのを厭われました。だとすれば
陛下は，君主にふさわしい思し召しを示されたことになりましょう。
と申しますのも，自分自身の財産を意のままに操れる国王にとり，
腐肉は食するにふさわしくないのですから。
陛下のお言葉が，公然たる憎悪を個人間の愛へと
変える結果をもたらしますよう願っております。
そしてそれ故，陛下の御回答は立派なものであったと存じます。
租税は議会により陛下に認められたもの，
陛下には，御自身のものを要求なさる理由がおありなのです。
国王　諸卿，我々をかくも威嚇する者どもと会うに際して，
恐れる必要などないと思う。
我々は明日彼らと会見し，
彼らの要求の中身を聞くことにしよう。
母上，心配なさる必要はありません。
我々がケント州から戻って来るまでは，
母上には，ロンドン塔に滞在していただきます。
では卿よ，万事に用意怠りなきように。
母上，母上のことはロンドン塔に
委ねることとし，私はケントに行かねばなりません。
大蔵卿　陛下，陛下に対する愛と忠誠の心から，
この件に関し，申し上げたきことがございます。
私はあらゆることにおいて陛下と王室を
最優先させて考えております。
思いますに，今度の会見はグリニッジの町の陛下の御館近くが
よろしいのでは。テムズの流れに浮かんでいれば，
安全でありましょう。
その間，謀反人たちは数名の代表を
陛下のもとに，その要求を伝えるため送ってまいりましょう。
この件について，私の考えを陛下にお知らせするために，
このようにあえて発言させていただきました。

（第１幕終）

第2幕

第1場

トム・ミラー，ガチョウを1羽もって登場。

ミラー　食糧の準備をしておくってのはいい心がけだ，
ひょっとしたら，食い物に事欠くかもしれないからな。
なにせ，ブラック・ヒースの野営も長くなるだろうから。
実際このガチョウがあるうちは，飢えるってことはないだろう。
食べてみたいと思うやつは，どんどん来やがれ，
大歓迎だ。というのも，こいつはまったく簡単に手に入ったんでね。
つまり得やすきものは失いやすしってわけだ。
おれたち隊長は，仲間うちでは貴族様なんだ，
この世の終わりが来なきゃ，おれたちはもうすぐ王様だ。

ノブズ登場。ミラーがしゃべっている間にガチョウの胴体を
切り離して持ち去る。首だけは置いていく。[2]

おれ以外の隊長たちは，王と会見するために
すでにグリニッジに向かった。
王はおれたちの希望を聞くために出向いて来たんだ。
連中がその用件にかかずらっている間に
おれはこのガチョウを使って楽しくごちそうをいただくとしよう。
何てガチョウだ。首だけ残して逃げやがった。

（退場）

第2場

反乱軍の者たちと共に，トム・ミラー，ジャック・ストロー，
ワット・タイラー，ホッブ・カーター，モートン登場。

ストロー　必要以上にかきまわしやがって，
おれたちをこんなに愚弄するとは，王は一体どういうつもりなんだ。

おれたちはただ無益に，王の思うがままに走り廻らされただけなのか。
王はテムズ川でおれたちと会見すると約束したはずだ。
それなのに，おれたちが川岸に到着するやいなや，
王はにべもなく船の方向を変え，ロンドンへ
逃げ帰ってしまった。
まったくワットよ，こんな扱いを受けてだまっちゃいられないぜ。
タイラー　本当だ，ストロー隊長。野営はたたんでしまって，
すぐにロンドンへ進軍しよう。
そこで王と話をしようじゃないか。もし話ができないようなら
その理由を聞かせてもらおう。
ストロー　まったくだ，ワット。王との話が終わる頃には，
おれたちはみんな貴族様ってわけだ。
カーター　ねえ，ジャック・ストロー，みんなで結束しよう。
弁護士は一人残らずやっつけてしまおう。
何にもならねえ書類も焼いてしまうんだ。
そしてジャック・ストローに盾つく阿呆は，
ぶっつぶしてしまおう。
モートン　全軍を代表して，
おまえたちが国王と交渉した方がいいんじゃないのか。
さしあたり十二人か二十人程度の人間が，
おまえたちみんなの意向を手短に伝えればいいのだ。
ストロー　サー・ジョン・モートンよ，おれたちに指図するとは，
立場をわきまえぬ愚か者よ。
おしゃべりはつつしんだ方が身のためだぞ。
タイラー　サー・ジョン，よくもおれたちを馬鹿にしてくれたな。
だがとにかく，できるだけ急いでロンドンへ攻め込もう。

（全員退場）

第3場

国王，大司教，大蔵卿，国務大臣，サー・ジョン・ニュートン，
スペンサー登場。

国王　諸卿，我が軍が全軍川岸に集結したならば，
　我々はロンドンの町へ帰るとしよう。
　ケントからの連中は，話をするに値しないし，
　いわんや理性的に命令に従うような輩でもない。
　彼らはまったく無秩序にただ絶叫するだけで，
　まるでこちらに攻め込まんばかりの様相を見せている。
　民衆にこれほどひどい扱いを受けた王の話など
　今まで聞いたことも，読んだこともない。

ニュートンとスペンサーを除き，国王とその一行退場。

スペンサー　サー・ジョン，王があんなにもすぐに引き返され，
　あれほど急いで下船されるとは，一体どういう理由なんでしょう。
ニュートン　船頭よ，王にはそうなさる理由がおありなのだ。
　間違いなく，王は熟慮されてのことなのだ。
スペンサー　王はあの手に負えない連中と話を始められる
　おつもりだったと思うのですが。
ニュートン　その通りだ，スペンサー。しかし，どうなったかは
　お前も聞いていよう。
スペンサー　私は船尾をしっかりとつかんでいましたからよくは存じません。
ニュートン　こんな具合だった。王とその一行は，
　グリニッジの町まで船でやって来た。
　連中の様子は実に壮観だった。
　あいつら，まるで蜜の巣箱に群がる蜜蜂のようだった。
　やつらは，砂利だらけの地面や砂地の上に広がり始め，
　あたりの空気を叫び声や恐ろしい物音で一杯にしてしまった。
　その反響音は，水面からも立ち昇り，
　高名なる我が王の両耳を貫き通してしまった。
　そのため，王はいたく怯えられ，何かよからぬ重大な策略が
　めぐらされているのではないかとお思いになったのだ。
　私は嘘偽りなく，王がこう申されるのを聞いた，
　あの連中は皆，スパニエル犬のように，死にもの狂いで
　川に飛び込んで泳ぎ，この船に乱入して来るだろう，と。

それで王の一行は全員，恐怖にとらわれ，狂乱の態で船を出したのだ。
その時王は，速やかにそこを逃げ出し，
地の利を最大限に利用しようと，お考えになったのだ。
スペンサー　実のところ私は，あまり王を非難することはできません。
私自身，あんなに恐ろしい思いをしたことはこの七年間ありません。
最大満潮時のテムズの水さえ空っぽにしかねないほどの
大勢の平民が集まっていたように見えました。
ニュートン　スペンサー，ロンドン橋のところに潮が三度満ちる前に，
ロンドンには，おそらくもっと悪い知らせが届くことだろう。
（両者退場）

第4場

ジャック・ストロー，ワット・タイラー，ホッブ・カーター，
トム・ミラー，ノブズ，モートン，サザックの男たち登場。

サザックの男たち　門を守っている同胞よ，この王の臣民たちを
中に入れてやるがよい。さもなければ，こちらから進んで
彼らの火に油を注いでしまうことになるだろう。彼らは
全サザックを略奪し，すべての囚人を解放し，王座部監獄と
王座裁判所を破壊し，この町を蹂躙しつくしたのだから。
だからどうか入れてやってくれ。
タイラー　門番よ，門を開けるのだ。自分自身が大事ならば，
命が惜しければ，開門するのだ。
ミラー　焼いて欲しいと言わんばかりにやって来た余分なガチョウが
一羽いるはずだ。もうそろそろうまく焼き上がった頃合だろう。

モートンを除いて全員退場。

モートン　同国人に略奪をはたらくとは，
この下劣な悪党どもは一体どういうつもりなんだ。
外国の敵にけしかけられたいかなる極悪非道の反逆者といえども，
こいつらと比べれば，少しも異様なものとは思えないかもしれない。

イングランド人がこのようにイングランドに災いをなしているのだから，
これを母なる国土に対する近親相姦と十分呼ぶことができよう。
キュネリスがその子供に対して加えた
あの邪悪で無法な暴力にたとえることもできる。
このような大難から逃れられれば，何と幸せなことか。
ああ，この反乱という企ての結末はどのようなものになるのだろう，
やつらが血に満腹し，また血にまみれる以外にないというのに。

（退場）

第5場

ノブズ，フランドル人と共に登場。

ノブズ　おいおまえ，隊長たちがお決めになったんだ，
「パンとチーズ」をちゃんとした英語で発音できないやつは，
みんなそれだけで死刑だってね。スミスフィールドで大勢の外国人が
死んだのも，それが理由なんだ。
「パンとチーズ」と言えるか，さあ，聞かせてもらおうじゃないか。
フランドル人　ピャンとキーズ。[3]

（2人退場）
（第2幕終）

第3幕

第1場

国王，ロンドン市長，サー・ジョン・ニュートン，2人の守衛官，
近衛兵，ジェントルマン登場。

国王　サー・ニュートン並びにロンドン市長，私は不当な行為を，
あからさまで非道な危害を突きつけられたのだ。
外国の敵ではなく，自分自身の臣民に
私はかくもむごい扱いを受けたのだ。

国王の胸のなかで養育された者たちが，
国王の優しい心づかいで育てられた者たちが，
その国王からかくも名誉と友人たちを奪い，
かくも絶えざる恐怖でもって威圧し，
言いようのない不幸へと無理矢理押しやるとは。
もし私が国王になるべき定めでなかったならば，
私が最も不幸な目に会った人間ということにもならなかっただろうに。
市長　この苦難の時には，これまでの王や貴顕の方々も
そうしてこられたように，理性を保つことが，
陛下にふさわしいことであろうと存じます。
忍耐と不屈の精神でもって武装なさるべきです。
忍耐は好機に対して決然たる気持ちを持つために，
不屈の精神はその決意をもって前進するために必要なものなのです。
この反逆者集団は多くの邪悪な不行跡を働いていますが，
陛下に対する最大の不正行為は，
陛下の御母上に恐怖感を与え，
臣下の貴族たちを無残にも虐殺し，
書物や記録資料を焼き払い，
敵対する家々，スミスフィールドの聖ヨハネ寺院，
サヴォイ宮殿などを破壊したことであり，
そして上流階級の人々を狼のように襲ったことであります。
私見によれば，彼らの最大の不正行為は，
陛下御自身の名誉に関わることなのでございますが，
陛下が国王ではなく，召使であるかのごとく，
会見と称して陛下を呼び出し，
数でもって陛下を威圧しようとしたことであります。
ああ，下劣で野蛮な者どもの考えることは，何と卑劣なことか。
天はこの者たちに対して，密かに罰を加える準備をなされているはず。
しかしおそれながら，陛下，
武装もなさらず，守護の者といえばほんのわずかの状態で，
なぜこのスミスフィールドへ，反逆者どものところへ来られたのですか。
国王　もし温情というものが，彼らの荒れ狂う心を説き伏せ，
市民としての秩序を回復することができるなら，まずそれを試してみたい。

私に仕える近衛兵を除けば，
私に同行しているのは，ここにいるロンドン市長だけなのだから，
彼らとて，私が事を荒立てるつもりがないことは分かるだろう。
市長　陛下がスミスフィールドをお通りになる際の護衛として，
おそれながら，市民に呼びかけて護衛隊を組織しようと存じますが。
国王　その必要はない，市長。彼らの気持ちを逆撫でするだけだし，
大量の血が流されるきっかけになるだけだ。
私はイングランド人の血を徒に流したくはない。
ここは，彼らの言い分を聞くために，
私が指定した場所だ。だから私はあえて
この邪悪で手に負えない者どものなかにやって来たのだ。
見よ，諸卿，連中がやって来るぞ。

ジャック・ストロー，ワット・タイラー，トム・ミラー，
司祭ボール，ホッブ・カーター登場。

ストロー　おい隊長たち，王が来ているぞ，さあ集まれ。
お待ちかねの団交相手の王だ。
国王　ニュートン，誰か一人が代表して話をするよう求めるのだ。
彼らの要求の要点を十分に聞くことができるようにな。
ニュートン　ここにいる全員を代表する隊長たちよ，
陛下の御意を私の口から申し伝える。
陛下と会見し，その要求を主張する者は一人にしてもらいたい。
また陛下は，穏やかにこう伝えよと仰せられた。
陛下は，代表者の話を詳しくお聞きになる御決意である。
国王　そのとおりだ，友人たちよ。そして心からお願いしたい，
できるだけ穏やかに君たちの希望を伝えてほしいのだ。
君たちにとって気に入らない点が少しもないよう
私は十分な回答をするつもりだ。
ストロー　王の役人の横柄なふるまいに復讐するためおれたちはやって来た。
ただし，あまり不埒な行いをするもんだから，もう殺しちまったがね。
おれたちの意見は一致している，おれたちは幸福と自由を
要求する。

全員　幸福と自由だ。　（反乱者全員叫ぶ）
国王　それで十分だ。できれば私を信用してほしい。
　私とてイングランドの正統な王位継承者なのだから，嘘はつかぬ，
　この王冠のあらゆる名誉にかけて誓う，
　君たち全員に自由と恩赦を与えよう，
　神とイングランドの正当王たる私が与える赦しなのだ。
タイラー　おれたちは，貧困にさいなまれ，この大地を
　掘り返して食い物を得るような羽目に陥るよりはむしろ，
　仲間うちで王や貴族となるつもりだ。おれたちだって
　陛下おかかえの御立派な連中と同じくらい
　ちゃんと食わせてもらう値打ちはあるんだ。
　暴君の傲慢な政治に我慢するなんて，もうまっぴら御免だね。
国王　一つ訊きたいのだが，おまえはどこの国の者だ。
タイラー　そんなことはどうでもいいことだが，イングランド人だ。
司祭　ええそうなんです，この男はケント州の人間です。今まで
　私が教えておりました。
市長　国王陛下にこんなにも無礼に接するとは，
　この悪党，礼儀というものをほとんどわきまえておらぬ。
国王　さあおまえたち，解放されたい，
　自由になりたい，という以外にもう望みはないのか。
全員　幸福と自由だ。　（反乱者全員叫ぶ）
国王　ならば，ここにいる全員にそれを約束しよう。嘘はつかぬ。
　さらに全員に対する恩赦もすぐさま出すつもりだ。
　必ず実行するという開封勅許状を付し，国璽も押そう。
　だから皆家に帰るのだ。
　おまえたちの恩赦と開封勅許状は，
　書記に大至急処理をさせ，
　すべての州へただちに送らせよう。
カーター　本当に，陛下，ありがとうございます。ホッブ・カーターと
　エセックスの者たちは家に帰ることにします。お言葉を信じております。
国王　おまえたちを信じておるぞ，そして礼も申しておきたい。
　この取り決めがすべて迅速に整うよう，
　ただちに命令を出そう。　（王一行退場）

ストロー　おいワット，こんなんじゃ，話が違うぜ。
おれはこんな返事をもらうためにやって来たんじゃねえ。
エセックスの連中がどうしても帰るって言ったって，なあに
構うもんか，家に帰って母ちゃんのおっぱいでもしゃぶってろってんだ。
おれは略奪しに来たんだ。だから徹底的に分捕るぜ。
タイラー　やりたいようにやったらいい，ジャック。おれもついてゆくぜ。
ノブズ　その結果絞首台行きとなったらどうします。
タイラー　それ以上悪いことは起こらねえよ。
ノブズ　確かにその通り。だけど私の言うことを聞いてもらえませんか。
王の恩赦なんて信用しちゃあだめです。全員死刑に決まってます。
だから隊長さんたち，最初と同じように前進しましょう。
司祭　皆さん，この少年はなるほどもっともなことを言ってくれました。
あのローマのカトーも言っております，
「語ルマエニ我ガ所見キクベシ」と。
すなわちよい忠告は，与えられた時に従うべきものです。
ストロー　いいだろう，小僧，おまえの言う通りにするぜ。

（全員退場）

第２場

書類を燃やしにトム・ミラー登場。ノブズ同時に登場。

ノブズ　やあ，ミラー隊長，世の中がどちらに向かって進もうと，まったくお構いなしって感じですね。
ミラー　ノブズよ，ほんとにおれはここでたくさんの証文やら契約書やら債務証書やらを焼き捨てていたんだ。法学院[4]の中にまで入ったんだ。いろんな記録書類のところに行ってきたよ。ギルド・ホールだろうとどこだろうと見つけたものは全部燃やしてしまった。ところでおまえはどこにいたんだ。
ノブズ　ストロー隊長やタイラー隊長たちと一緒に，スミスフィールドの聖ヨハネ寺院にいました。でもね，ニュースがあるんですよ。カーター隊長が家に帰ってしまったんです。それにエセックスの連中も。ひょっとした

らぼくたち全員絞首刑かもしれません。だから，身辺には気をつけた方がいいですよ。ぼくはぼくで気をつけます。

（ノブズ退場）

ミラー　でも，縛り首になるったって，後悔するのは愚の骨頂さ。
腹を決めて縛り首にならなきゃ。
おれは縛り首になる，おれは縛り首にならない，
さあこのなぞ解いてみろ。

ここで彼は棒を使って自分が絞首刑になるのか
ならないのかを決めようとする。
皇太后と宮廷の取次役登場。

皇太后　あの男は何をやってるの。
取次役　絞首刑になるのかならないのか，
あの男はひとりで論争しているようです。
皇太后　ああ，哀れな。本当に愚かなことです。
でも，大勢のあの男の仲間ほど愚かではないでしょう。
取次役　もし我々の聞いているのが事実とすれば，
国王陛下は，全員に対する恩赦をお与えになったはずです。
皇太后　その通りです。反乱者たちも正直者らしく，帰途につきました，
少なくともその大半は。でも，いつまでもこの場に居残る者の身には
よくないことが起こるでしょうね。
ミラー　ちょっと待てよ，あれは王の母親だ。息子に対して発言力もあるだろう。うまく働きかけて，王から恩赦をもらえるようたのんでみよう。あそこまで行ってみよう。皇太后様，あわれな隊長トマス・ミラーが謹んで御挨拶申し上げます。死刑執行の許可に関しまして，今申し上げました隊長ミラーに対し，特別の御高配をお願いいたします。その私，あからさまに申し上げれば，「高キ絞首台ニテ縛り首ニナルベク定メラレシ者」となりましょうが，その拷問台より，神がすべての者を解放されますように，また我々がこの世で共に生きる間，互いに慈悲深くあるよう神が思し召されますように。皇太后様，あなた様が国王陛下の御母上であることを承知の上で，お願い申し上げます。あなた様は先ほどこの儀につき悲しげにお話しなさいましたが，絞首台と私の間に立って調停をしていただけないでし

ょうか，つまり私の恩赦を願い出ていただきたいのです。そうしてくだされば，皇太后様は立派な体格の美男子で勇敢な隊長の命をお助けになったというだけでなく，町の居酒屋のおかみみんなの祈りをかなえてくださることにもなるのです。強いビールをかたづけてくれるひいきの大酒飲みを助けたということですから。

皇太后　この男，一方的にまくしたてて，一体何が言いたいの。

取次役　どうも縛り首になることを恐れているようです。
従いまして，奥様の御好意を求めているのでしょう。

皇太后　ああかわいそうな男だこと。まったくの阿呆のようだわね。
おまえ，王の恩赦を乞いに行くというのなら，
おまえのために口添えをして上げましょう。

ミラー　本当でしょうか。お礼に絹のレースを差し上げます。

取次役　奥様，荒くれ者どもがやって参ります。立ち去りましょう。

皇太后と取次役退場。
ジャック・ストロー，ワット・タイラー，司祭ボール，ノブズ登場。
トム・ミラーはそのまま残っている。

ストロー　王と貴族たちは，宮廷でおれたちに聖水を少しばかり授けたので，
これで一安心，安眠できると考えているようだが，
とんでもねえことだ。甘い言葉にだまされて，後で
縛り首になるような，そんな阿呆じゃ決してねえ。
ワットよ，おまえがやろうと思っていたことをやるんだ。
おれの言うことを聞いてくれるなら，このままじゃすまさねえ。

タイラー　さあみんな，パッパラパーン，攻撃だ。

ミラー　同志よ，そこまで言ってくれるのかい。ならば我が恩赦よさらばだ。
おまえと行動を共にするぞ，そして仲間らしく一緒に縛り首だ。

司祭　同胞よそして友人たちよ，決して屈服してはならない。
戦場で力一杯戦い抜くのです。
神はあなたたちに力をお与えになり，
あなたたちの敵を敗走させるでしょう。
神は常にあなたがたの敵に敵対されるのです。
私の名誉にかけて言おう，この戦いは正義の戦いなのです。

ミラー　ボール司祭，みんなの前ではっきり言うけど，
　あんたの助言に従い，あんたの話に耳を
　かたむけて，もし事態がまったくよからぬ方向に向かったら，
　おれたちはみんな絞首台行きなんだ。
　ボール司祭，いいかい，
　おれの名誉にかけて断言するが，
　あんたも，おれたち同様，縛り首になるんだよ。
ストロー　静かに。王がやって来たようだ。

国王，ロンドン市長，剣を携えたニュートン登場。

国王　ニュートン，我々の眼前にいる集団は一体何者だ。
　立ち去ると約束した連中なのか。
ニュートン　陛下，まさにその通りでございます。
　陛下に立ち去る約束をした者たちの一部です。
国王　ということは，彼らは約束を守っていないということになるな。
　あれほど心をくだき情けをかけてやったのに。
　彼らは私との約束を破ってはならないのだ。
　これは大いなる忘恩と言えよう。
市長　恐れながら，陛下，エセックスの者たちは，
　はるかに善良な心を持っており，すでに軍を解き，
　全員が家に帰った模様です。
　ここに残っている反逆者たちの主力は，ケント州出身の，
　卑しい生まれで，貧しい境遇の者ばかりのようです。
　私の聞き及ぶところでは，この者たちは，破壊と略奪にのみ
　明け暮れるつもりだと誓っております。
国王　ロンドン市長よ，もしそうなら，
　これは危険な非道の決意だと言わざるをえない。
　さあ，ニュートン，彼らのところへ行って話をし，
　連中の更なる要求が一体何なのか，尋ねてくれ。
ニュートン　隊長たち，暴徒を束ねる者たちよ，
　情け深くも王は，この私を通しておまえたちに願っておられる。
　王のもとに来て，手短に話をするようにとのことだ。

ストロー　おいおまえ，王がおれたちに用があるというのなら，
　王自身がおれたちみんなと分け隔てなく会わなきゃならんと伝えるんだ。
ニュートン　おまえたち皆と会見することはできない。数が多すぎるのだ。
　それに，おまえたちには，君主に対する臣下の礼というものがある。
ストロー　おい，おまえがそこに着けている剣をおれによこせ。
　おれの目の前で武装しているとは，なかなかよくにあっているぜ。
ニュートン　自分の身を守るために私は武器を携帯しているのだ。
　悪いが，しばらくはこのまま身に着けさせてもらう。
ストロー　この野郎，どういうつもりだ。よこせと言っているんだ。
国王　もしそれで気がすむというのなら，ニュートン，渡してやれ。
　さあ受け取れ，大いに役立つだろうな。

　　国王，剣を与える

ストロー　この悪党野郎め，おまえが持っている剣をよこせと言ってるんだ。
　おれが気に入っているのは，いいか，そいつなんだ。
ニュートン　この剣は国王陛下のものだ。
　私のものではないし，おまえに渡すわけにもいかない。
　高慢な謀反人め，もし二人きりの一対一ならば，おまえにこんな
　思い上がった要求は決してさせはしない。
　たとえこのスミスフィールド中の富をすべてくれるといったって，
　私の手から剣を与えたりはしない。
ストロー　おれは絶対に食事をしないぞ，
　おまえが縛り首になるか，破滅するのを見るまではな。
国王　ああ，ロンドン市長，ニュートンが非常に危険だ，
　しかし暴徒相手では，武力を行使することもできぬ。
市長　古のローマよ，私は書物で読んだのを覚えている。
　おまえがその美徳故，そして武力故に栄えていた頃，
　何という崇高な勇気がおまえにはあったことか。
　ならば，ウォルワースよ，おまえという人間にふさわしく，
　おまえの仕える君主から名誉を授けられる価値のある存在となれ。
　そして何らかの重要な行為によって，
　おまえのこのロンドン市長という名声を美しく飾るのだ。

おい悪党，おまえの怒りの出所はどこだ。
おまえのような私生児の糞だめ野郎がよくも不遜に
国王陛下や高位貴顕の方々に対して傲慢な口がきけたものだ。
悪党，我が君主の名においておまえを逮捕する。
高慢な謀反人め，これでもくらえ。

ストローを刺す。

おまえも，おまえに続く後の世の者も，よく知るがよい，
卑しい奴隷の分際で，王に盾つくとどういうことになるかを。
陛下，私のこの行為をどうぞお許しください，
神に対する，そして陛下御自身に対する，我が務めをなしたのです。
国王　ロンドン市長，今回のそなたの勇敢な行為と，
王のための見事な勇気に対して，
必ずや私は，その労に報いるつもりだ。
全員　隊長が殺された，隊長が殺されてしまった。　（反乱者全員叫ぶ）
国王　皆の者，恐れることはない。私はおまえたちの王である。
そしておまえたちの隊長となり，おまえたちの友ともなろう。
ニュートン　陛下，恐れながら，どうぞお退りください。
この謀反人どもを直ちに撃退いたしますので。

ロンドン市長と２名の守衛官を残し，全員退場。

市長　兵士たち，勇気を出して私について来てくれ。
神こそが勝利をお与えになる。
この呪わしい悪党を市中に引き回し，
謀反人どもを恐怖に陥れるのだ。
ロンドン市がおまえたちにその権限と武器を与えよう，
そして神がおまえたちに力を授け，敵を威圧してくださるだろう。
このスミスフィールドを叫喚と歓声で満たし，
国王万歳と声高に唱えるのだ。

（全員退場）
（第３幕終）

第4幕

第1場

国王，ロンドン市長，モートン，ニュートン，貴族たち登場。

国王　ロンドン市長並びに敬愛なる友人諸君，
このたびの，王とイングランドに対するあなたたちの機敏なる支援は，
あなたたちの忠誠心と，国王およびイングランドに対するあなたたちの
愛を証明するまたとない機会となった。
神の御加護と強き助力のおかげで，
この卑劣で非道なる暴動は鎮められ，
不幸な騒乱は見事に鎮圧された。
私もまた法と国王としての本分に縛られる存在であり，
今回の善き行いの源である神に対して，
しかるべき賛美と感謝のいけにえを捧げたところだ。
さて，今度の重要重大な出来事にいかなる結末をつけるかについては，
つまり我々が片づけなければならないこの大変な仕事については，
そなたたちの助言と真摯な意見に広く任せたいと思う。
が，私の意向を手短に述べさせてもらうとすれば，
諸卿，私としてはこの厄介な事件の処理において
法に逆らいたくはないのだ—慈悲の観点からはそうすべきであろうが。
確かに，そなたたちに約束したように，
もし彼らが反乱をやめていたならば，
あるいはその邪悪なる武器を打ち捨てていたならば，
恩赦をあまねく施していたであろうが，
今そのつもりはない。しかし，かくも多数の同国人全員が，
一日のうちに死刑に処され縛り首になるのを，
私は決して見たくはない。（もちろん，私の手による刑の執行を
法が強く求めているのは分かっているのだが。）
だから私はこのような結末にしたい。すなわち，
非道極まりない形で謀反を起こした軽率な暴徒たちのうち，
首謀者等は罰されることになろう。
これで私の意向は理解してもらえたと思う。さあ諸卿，そのように

取りはからうのだ。我が意を違えることなく事を処理してもらいたい。
ニュートン　君主における慈悲はまさに，
冬の日における嬉しき陽光に似ております故，
陛下，どうぞ私めの発言をお許しください。
この地上における命と息の希望がすべて
この暴徒たち全員から奪われている時，
もし彼らが死すべきその瞬間に，
陛下の光栄ある恩赦が，半ば死んだも同然の
完全に死を覚悟した者どもにもたらされるならば，
その恩赦は，思いますに，急いで与えられるよりも
一層仁慈深いものとなりましょう。
生命の糸がほとんど二つに切れかける時，
それを補強してやることが，感謝と驚嘆の念を生むのです。
市長　シティ内で捕えられた者は皆，
厳重に拘禁され，陛下の御下命を待っております。
国王　今回の罪故に私が死刑に処したいと思う者は，
全暴徒中一人か二人にすぎない。
それは特に名の知れた者たちだ。
一人は邪悪で煽動的な司祭，
我々の知るところによれば，ボールと呼ばれていた者だ。
あの連中のなかで最も悪名高い男だが，
この人物の処分に関してはそなたたちに任せたい。
ニュートン　恐れながら陛下，反乱者たちはたちまちに一掃されました。
そのなかには，我々に見つけ出せるような首謀者たちと，
一般の暴徒が多数含まれておりました。
しかし，あの呪われた司祭ボール，そして反乱軍の隊長の
ワット・タイラーと申す者も生き延びております。
彼らの悪行と極悪非道な残虐行為は，
まったく野蛮な形で実行にうつされました。
司祭の方は，悪意と敵意に満ちた嘲りの熱弁をふるい，
隊長の方は，腕に物を言わせて暴力をふるったのです。
ですから，寛大な哀れみと慈悲をもってしても，彼らの弁明に
耳をかすことはできませんし，まして恩赦などとんでもありません。

国王　もうよい。そなたの考えは十分に分かった。
　それに，このような事件に際して王というものは，
　時としてあまりにも仁慈をかけすぎる，ということもよく知っておる。
　が，今ここに入って来たのは何者なのだ。
ニュートン　陛下，恐れながら申し上げます。この者たちは，
　法がしかるべく死刑の宣告をし，
　今刑場に向かっているのです。
　先頭を行くのは例のボール，そしてその次は，
　ワット・タイラー。両人とも根っからの謀反人と申せましょう。
　残りの者たちは皆，より善良な気質であり，
　その物の考え方は先の二人より穏やかです。
　軍のなかでは下級兵士として働き，
　他の者の意見に左右される存在であったわけですから，
　むしろ哀れむべき者たちと申せましょう。
国王　モートン，ここにいる死刑宣告をされた者たちに対して，
　彼ら全員にこの恩赦状を読み上げよ。
　ただし，先頭の二人は除いてな。
　司祭とワット・タイラーと呼ばれている二人だ。
　残りの者全員に，恩赦を与える。
　彼らには王からだと伝えるのだ。

　　サー・ジョン・モートンによって謀反人たちに
　　国王の恩赦状が読み上げられる。

モートン　「我が友人にして不幸なる国民たちよ，
　イングランドの法は，汝等の正当な国王にして
　聖油を注がれた君主に対する非道にして
　公然たる反逆の罪故に，汝等は死罪に十分価すると
　宣告を下した。私は，以下の事を汝等に知らしめるために，
　国王陛下の下より遣わされた者である。
　汝等は鋭利なる剣に向かって身を投げる狂人の如く，
　法により裁かれる危険に狂乱の体で身を投じたのだ。
　すなわち汝等は反乱を起こすことにより自らに暴力を加えたのである。

それにもかかわらず—よいかもう一度言おう，汝等は，下劣で
人心を惑わす首領たちに自暴自棄となってつき従った結果，
汝等全員の身に差し迫るこの惨めで恥ずべき結末，
つまり人間として生きようとしなかったが故に，悲惨で
恥多き形で生を終え，絞首索により犬死せねばならぬという
運命に追い込まれた。汝等は自らの手で自らをむち打つことになったのだ。
汝等はその本分，イングランド人としての本分からはるかに乖離し，
当然の服従やイングランドの本質から堕落したのだ。この国は本来，
そのような人間を生み出したり容認したりする国ではなく，庶子として
裏切者として吐き出す国なのである。それにもかかわらず，よいか—
汝等は，恥ずべき最も忌まわしい刑死に刻一刻と近づいているという
まさに生き地獄に置かれている。そのような死は，いつものことながら，
身の毛もよだつ重罪人にふさわしいのであるが—しかしながら，
常に善き御心の持ち主であられる国王は，汝等に生を授け，
汝等の罪を寛大にも許すことを喜ばれ，汝等全員に
惜しみなく恩赦を与えるため私を遣わされたのだ。ただし，
真理と，君主に対する忠誠から大きく道を踏み外した
呪わしい煽動家の司祭と，その行動すべてにおいて
その悪虐無道ぶりが知れ渡っているタイラーなる者を除いて。
国王陛下は，この男と先の司祭（今回の騒乱と非道な反乱の
最初の煽動者）を，後世の全イングランド人の
戒めとするのがよかろうと考えられた。
二人はその存在が陛下を深く悲しませる極悪重罪人なのだ。
かくして私は国王のお言葉を，つまり汝等全員に対する
恩赦と，二人の大謀反人ジョン・ボールとワット・タイラーに対する
死刑宣告とを告知した。この大いなる慈悲故に，
もし汝等自身少しでも国王陛下に恩義を負うていると考えるならば，
（事実おまえたちは限りなく恩義を負うているのだが）外に向けて
敬意を示すことで，つまり心のなかの忠誠心を外に表すことによって，
今後できる限りその気持ちを表明するがよい。まずその手始めに，
感謝のしるしとして，国王陛下万歳と唱えるのだ。」

全員，国王陛下万歳と叫ぶ。

タイラー　なるほど。だが，おれたちは最悪の事態がどういうものかは
分かったよ。せいぜい縛り首になるくらいさ。それでおしまいさ。
もし万一ジャック・ストローが生き返って，
おれにも以前に劣らぬような可能性が開けるんだったら，
もっと確かな手を出すよ，
あんなに有利な勝負に負けないうちに。
司祭　決起した時，みんなに説法したことを後悔してはいない。
もしまたしゃべることになれば，
一つ一つの言葉がまるまる説教となるくらいたくさんしゃべるのだが。
私が後悔するのは，せいぜいそれくらいだ。
モートン　謀反人どもを連れて行け。こいつらに口をきかせてはならぬ。
この男の言葉はここにいる連中の耳には毒なのだから。
失せろ悪党，国家と教会の汚点め。
タイラー　おいモートン，梅毒持ちのくせに元気そうだな。
おれはお前の頭をつかんで，ロチェスター城から引きずり出してやったな。
モートン　お返しに，お前の首を棒に突き刺して晒す手助けをしてやろう。
タイラー　その前にまず，おれたちの胴体と首を切り離してもらえねえか。
モートン　謀反人たちを連行しろ。

（謀反人たち退場）

陛下の御命令どおり，逮捕した者たちに
陛下の御意志を告知いたしました。
例の二人の非道なるイングランド人，
いえ，イングランド人とも人間とも申せますまい，
あのボールとタイラーの呪われた謀反人どもに関しては，
死刑の執行を命じておきましたが，その両名を除きましては，
残りの者全員に陛下の恩赦を布告いたしました。
陛下の御名において，死刑囚以外全員を解放いたしましたが，
彼らの感謝に満ちた心は，喜びと陛下への
敬意のしるしで一杯でありました。
と同時に，例の非道なる謀反人どもの憎しみに満ちた口は，
汚い下劣な言葉で膨れ上がっておりました。
国王　大したことではない，モートン。勝手に吠えさせておけ。
死んでしまえば，噛みつくこともできないからな。

ところでロンドン市長，王のために，つまり
イングランドとその国王を邪悪の手から解放するために，
そなたが危険を承知でとった勇敢な行為についてだが，
私はそれを国王と国家のための勲功としてしかるべく受けとめ，
そのあっぱれな行為に対して感謝の気持ちを表したい。
市長　君主を眼前にして威張りちらし，
居並ぶ貴族を前に国王に公然と挑みかかるような
謀反人どもの非道ぶりに我慢できるような臣民の心などありましょうか。
そのような荒れ狂う敵の激情を，策略ないし
力でもって鎮めようとするのが，普通でありましょう。
陛下，私は臣下の義務を果たしただけでございます，
第一に神に対して，そして正当なる国王陛下に対して。
私の行動は，誠実で忠実な心より生じたもの，
ですから，陛下にそのように評価していただければ幸いに存じます。
国王　そなたの行為をいつまでも記憶に残しておこう。
それが人々の永遠の記憶のなかに存続するように，
ロンドン市長，そなたの現在の位に，
永久の名声の肩書きをもう一つつけ加えることにする。
ウィリアム・ウォルワース，ひざまずきそして受けとるがよい，
国王自らの手から，ナイトの爵位を。
立ち上がれサー・ウィリアム，市長として初めてのナイトよ。
今後，ロンドン市長の位を継ぐすべての者に，
そなたの貴い行為故に，同じ名誉を授けよう。
さらに，時がそなたの名声を奪うことがないように，
ロンドン市の紋章に血染めの短剣を
記念に帯びさせ，ウォルワースの一層の名誉としよう。
そなたの紋章官を呼び出し，そのように手配せよ。
市長　恵み深き陛下，今度の光栄ある恩恵は，
我が身に余るものでございます。私は，臣下の義務と
忠誠の一心で行動したにすぎないのですから。
そして陛下の御恵みは，私と後に続く市長たちとをいつまでも結びつけ，
同様の行為へと誘う甘美な励みとなりましょう。
国王陛下並びにここにおられるすべての貴顕の方々，

皆様はロンドンが常に立派な宝の庫であることをお知りになるでしょう。
それは，皆様がその富を自由にお使いになれるというだけではなく，
君主にとっての財宝とも言うべき臣民の忠実なる心が，
肥沃な大地に蒔かれた穀物の如く育つ場所だという意味なのです。
我が君主とイングランドを解放するために，その聖なる手で，
私に勇気をお与えくださった神に賛美の言葉を捧げます。
国王　さて，今度の危険な騒乱も，イングランド人の
血をほとんど流すことなく終わった今，
乱の平定に功あった者たちに十分報いることが，
君主にとっての名誉であり名声となるのだ。
市長，そなたと勇敢な行動を共にせんと，ここスミスフィールドに
同行してくれた多くの市長の同胞諸君については，
時いたれば，そなた同様ナイトの爵位を授けよう。
さあ，ロンドン市長，ニュートン，モートン，そして残りの者たち，
ロンドン塔まで護衛同道せよ。
そこで一夜休息を取ろうぞ。

（終）

訳　注

本稿は，『ジャック・ストローの生と死』（*The Life and Death of Jack Straw*）の全訳である。

『ストロー』の作者については，判然としない。ジョージ・ピール(George Peele)が候補としてあげられることもあるが，確たる根拠があるわけではない。この劇は，1593年10月23日にロンドン書籍商組合登記簿に登記されている。初版本タイトル・ページには1593年，奥付には1594年出版と記されている。印刷者は，ジョン・ダンター(John Danter)であった。1604年にはトマス・ペイヴィアー(Thomas Pavier)が第2版を発行している。第2版は，初版の不正確なリプリントである。

ダンター初版本は，2部現存している。一つは英国図書館所蔵であり，他はスコットランド国立図書館所蔵である。1957年にケネス・ミュア(Kenneth Muir)とF.P.ウィルソン(Wilson)がこの2つの版本の複写写真を校合して，マローン協会リプリント版を発行した。翻訳の底本として用いたのは，このマローン協会版である。

『ストロー』のテクストは，いちじるしく短い。マローン協会版で1,210行である。ちなみにシェイクスピアの歴史劇『リチャード二世』（二折本）が約2,850行，『ヘンリー四世・第1部』（二折本）が約3,180行である。行数でいえば，『ヘンリー五世』（四折本）が1,622行で『ストロー』に近い。『ヘンリー五世』四折本は，何らかの理由で作者の手

稿あるいは上演台本から多数行が脱落した（あるいはカットされた）「不良四折本」とされる。『ストロー』も同様に，オリジナル原稿または上演台本からかなりの行が失われた（あるいは削除された）可能性が大きい。

現存刊本には，本文の不整合・誤りが散見する。翻訳に際しては，あるいはマローン協会版編者の示唆に従い，あるいは訳者の判断により，適宜修正を施した。

1　原文のト書きでは「使者登場」となっているが，前後関係から判断してこの使者をモートンとした。
2　原文のト書きでは，2幕1場でモートンはすでに登場していることになっているが，実際に登場するのは次の場である。したがって，2幕1場のト書きからモートンの名前を削除し，2幕2場のト書きに移した。
3　この部分には話者名が欠落しており，ノブズの台詞と解釈することも可能であるが，フランドル人が「パンとチーズ」(bread and cheese)をフランドル訛りで「ピャンとキーズ」(Brocke and Keyse)と発音したと解した。『ストロー』で描かれている一揆は，歴史上ワット・タイラーの乱として知られているが，この反乱時にロンドンでおよそ160人のフランドル人が虐殺されたという。虐殺したのは反乱農民であるとされてきたが，これはぬれぎぬであって，実は織物業の商売敵としてフランドル人を憎悪するロンドン市民が襲ったらしい。虐殺の際，ロンドン市民とフランドル人とを区別するために考え出された簡単な方法が「パンとチーズ」という言葉の発音テストであった。これをフランドル訛りで発音した者は，ただちに殺害されたという。
4　原文では“the ends of the Court”となっているが，ここは“the inns of the Court”の誤りと判断した。反乱者たちは，ロンドンのさまざまな場所を襲撃したが，そのなかにテンプルとリンカンズインの両法学院が含まれていた。